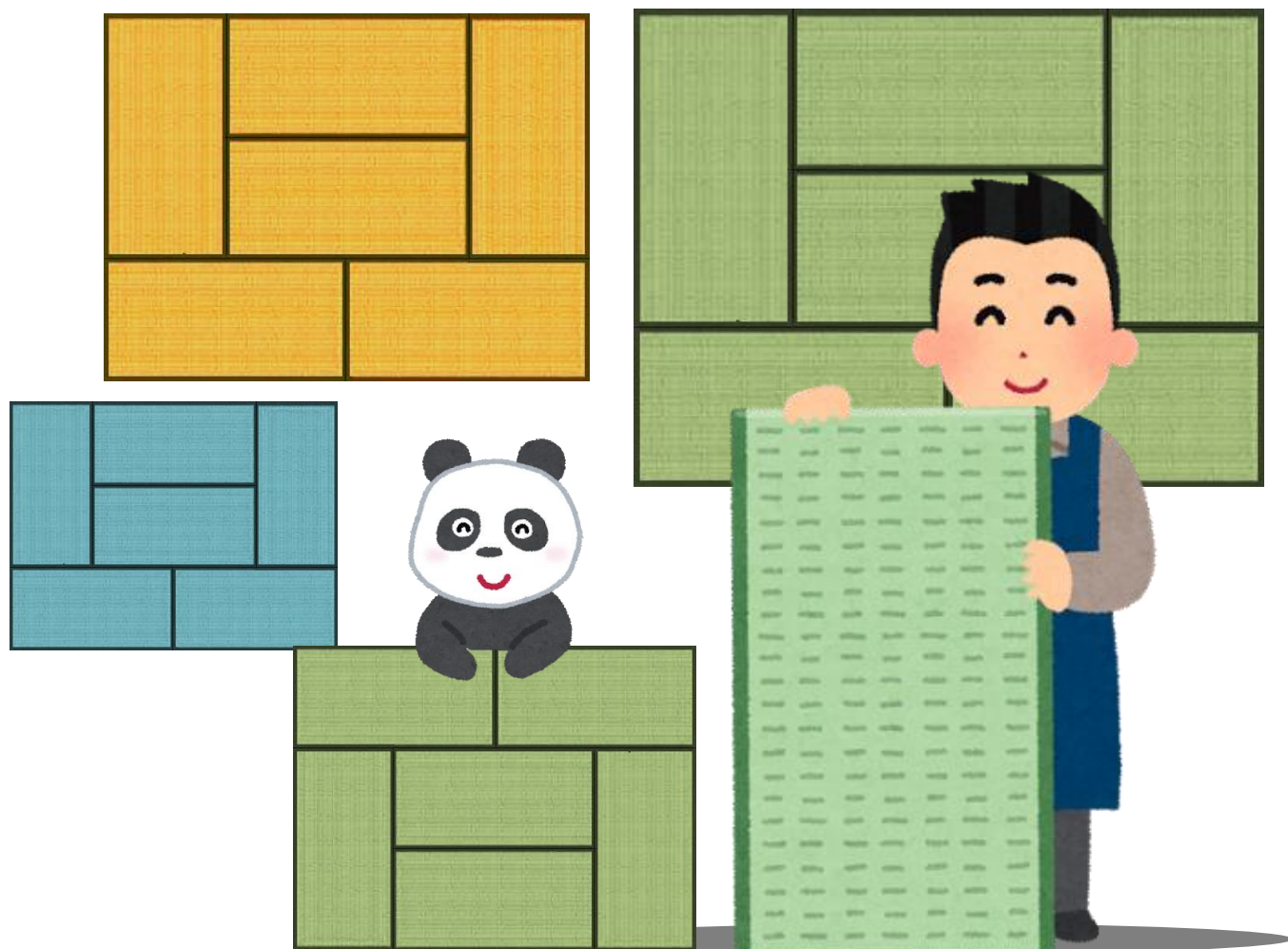


に ほ ん こころ まも
日本の心を守る

た た み や
畳屋さん



よこはましぎのうぶんかいかん
横浜市技能文化会館



…畳屋さんってどんな
お仕事なんですか…？

畳は世界に例のない日本独特の文化で、もちろん
畳職人も日本にしかいません。
畳は「トコ(床)」と呼ばれるワラを束ねた心材の表面に巻く、
イグサで編まれた「オモテ(表)」、縁につける「ヘリ(縁)」からで
きています。この3種類の材料を縫い合わせるのが畳屋さんの主
な仕事です。

畳は高い断熱性と保温性を持ち、また湿度の調整もしてくれ
るので、日本の気候にぴったりです。また、オモテにつかわれて
いるイグサの香りはリラックス効果があることがわかっています。
最近では洋風のフローリングの部屋でも、畳のベッドを使う人
が増えてきています。部屋の作りや広さはいつも同じというわけ
ではありません。畳屋さんはその部屋にぴったり
合うように畳の大きさを調整します。

隙間のないように作るのが畳屋さんの
腕の見せ所です。



たたみや 畳屋さんの技 その1

○畳の作り方

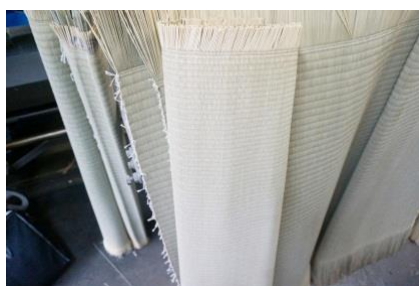
最近ではほとんど機械で作られています。しかし、細かい最後の仕上げにはいまだに手作業をすることがあります。

トコのおお
きさを
ちょうせい
調整して切る。



みぎ でんとうてき わらどこ ひだり
右が伝統的な藁床、左が
さいしん ざいりよう つか かぐどこ
最新の材料を使った化学床。

トコにオモテをかぶ
せ、ぬい
縫い付ける。



オモテ。いろいろな目の
こま
細かさがある。

ふち
縁にへりを縫い
つける。



みほん
へりの見本カタログ。
なんじゅっしゅるい なか
何十種類もの中から
えら
選ぶ。

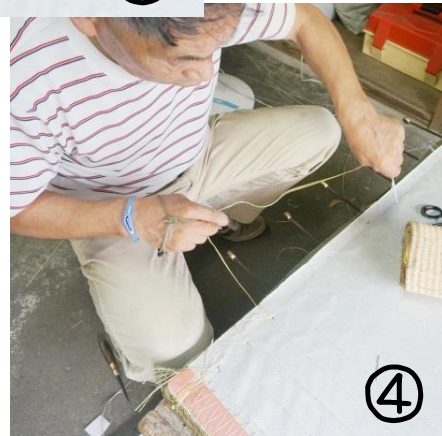
○畳の大きさ

ちほう
地方によって大きさが違います。皆さんの家の畳の大きさはどれでしょう。

名前	大きさ	使用地方
京間、本間、関西間	3尺1寸5分×6尺3寸 (955mm×1910mm)	主に近畿、四国、中国、九州
中京間、三六間	3尺×6尺(910mm×1820mm)	主に愛知、岐阜と一部の東北地方
江戸間、関東間、田舎間、 五八間	2尺9寸×5尺8寸 (880mm×1760mm)	主に関東地方と北海道、一部の 東北地方
団地間、公団サイズ、五六間	色々あるが、2尺8寸×5尺 6寸が基本(850mm×1700mm)	公団住宅、アパート、マンション等 の集合住宅

☆日本で昔使われていた長さの単位 : 1尺=約30.3cm 1寸=約3.03cm 1分=約3mm

たたみや 畳屋さんの技 わざ その2



オモテを^ぬツコに縫い付ける作業。^つ5センチほどの^{さぎょう}ツコに^{ふと}太い^{はり}針と^{いと}糸を通すため、かなりの^{ちから}力が^{しよくにん}いりますが、^{かるがる}職人さんは軽々とやっ^とての^おけます。



^{げんざい}現在は^{きかい}機械でほとんどの^{さぎょう}作業を^{おこな}行っています。^{しゃしん}写真はオモテを^ぬツコに縫い^っ付けているシーンです。

たたみや 畳屋さんの技 わざ その3

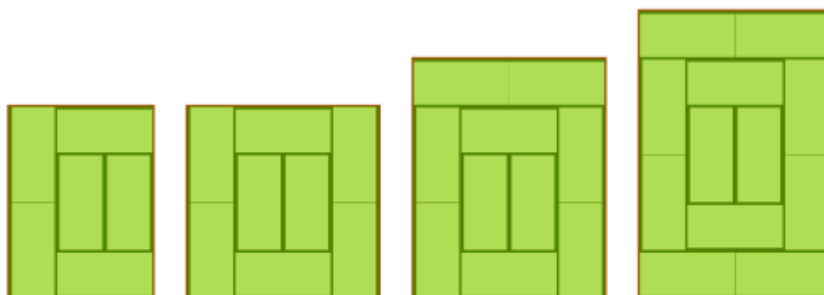
○ 畳の敷き方

敷き方には基本的に決まりがありますが、畳屋さんは部屋の形によって敷き方を変えます。

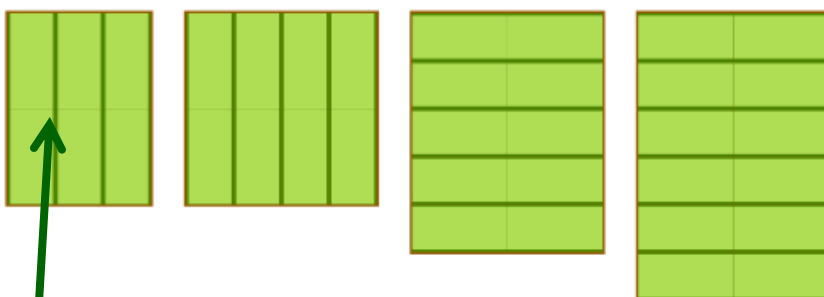
・祝儀敷き・・・通常この敷き方をする。畳4枚の4隅がくっつくかなようにする。

・不祝儀敷き・・・お葬式の時のような縁起の悪い時の敷き方。

祝儀敷き



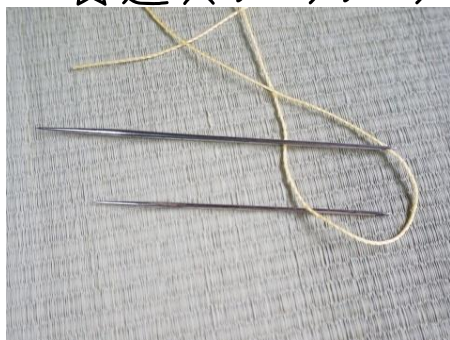
不祝儀敷き



十字路のことを四つ辻といいます。昔、四つ辻は縁起が悪いとされていました。畳の角が4つつながる部分が四つ辻に見えることから、今でも縁起の悪い敷き方とされています。

たたみや 畳屋さんの道具

どうぐ ☆道具いろいろ



たたみばり
畳針

いろいろななががあり、使いわけています。



マチバリ

オモテを固定するのに使います。同じ名前でも、お裁縫で使うマチバリとは大きさが全く違います。



ヘリシキ

ヘリを縫い付ける時に固定するのに使います。写真のものは20年使っているもので、指が当たるところがへこんでしまっています。



てあ
手当て

ふとたたみばりさときてきず
太い畳針を刺す時に、手が傷つかないように使います。手当ての中には金属の板が入っています。畳屋さんは手当てを自分で作ります。



ほうちょう
包丁

トコやオモテを切るのに使います。手入れのときに研ぐため、使い続けると小さくなっていきます。一番小さいものは大事に70年使い続けたものです。もともとは一番左の包丁くらいの大きさだったって信じられますか？

たたみや 畳屋さんの歴史

伝説では海の神様である豊玉彦命と豊玉姫が客をもてなしたとき、畳を重ねて座らせたというのが始まりです。そのため、豊玉彦命と豊玉姫は畳の神様とされています。



畳の神様座っているのが豊玉彦命と豊玉姫。お客さんが八角形の畳の上には立っている。

畳は日本にしかない文化です。最初は藁を重ねていただけでしたが、平安時代に束ねて編むようになってきました。次第に厚みや大きさも決められていき、使う人の身分によってヘリの色までも決められていました。

最初は人が寝たり座ったりする場所だけに敷き、布団や座布団のように使っていました。それがだんだんと部屋全体に敷くようになり、室町時代に茶道が流行して正座をするようになると、一気に広まっていきました。

ただし、それでも畳は貴族や武士などの身分の高い人だけが使うものでした。一般庶民に広まったのは江戸時代の終りごろです。畳の歴史は長いですが、多くの人が使えるようになるのはだいぶ後になってからののです。

そして今では洋式の家が増えていて、和室のないお家もたくさんあります。みなさんのお家に畳はありますか？

たたみや 畳屋さんになるには？

たたみや
畳屋さんの学校として、埼玉^{さいたまけん}県と茨城^{いばらきけん}県に専門^{せんもん}の
職業^{しよくぎよう}訓練^{くんれん}校^{こう}があります。また、栃木^{とちぎけん}県、長野^{ながのけん}県、岐阜^{ぎふけん}県、
京都^{きょうと}府、鹿児^{かごしまけん}島^{しま}県には畳^{たたみ}の技^{わざ}を学^{まな}ぶコースを選^{えら}べる
学校^{がっこう}があります。

おも
主に畳^{たたみや}屋さんの跡^{あと}継^{つぎ}ぎがこの学校^{がっこう}で勉強^{べんきよう}していま
す。

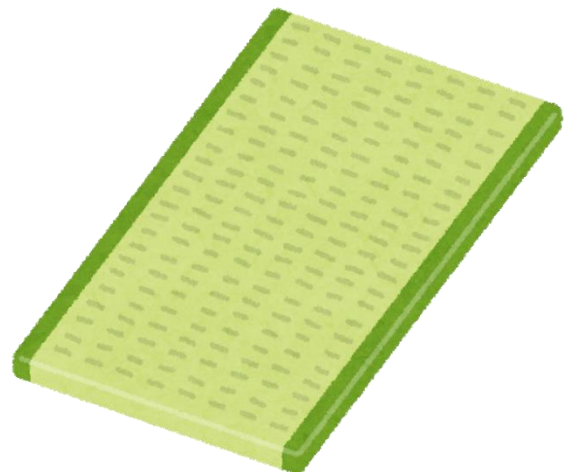
そこでは昔^{むかし}ながらの道具^{どうぐ}を使^{つか}っての作り^{つく}方^{かた}や、畳^{たたみ}を
作る^{つく}機^き械^{かい}の使^{つか}い方^{かた}を勉強^{べんきよう}します。

こっ^こか^かし^しか^かく
国家資格^{こくかしかく}として、畳^{たたみ}製^{せい}作^{さく}技^ぎ能^の士^{うし}があります。1^{きゅう}級^{きゅう}と2^{きゅう}
級^{きゅう}があり、どちらも昔^{むかし}ながらの道具^{どうぐ}を使^{つか}い、手^て作^さ業^{ぎよう}で
作る^{つく}試^し験^{けん}を受^うけます。

たたみ
畳^{たたみ}は日本^{にほん}の心^{こころ}だといいます。

たたみや
畳屋^{たたみや}さんは日本^{にほん}の心^{こころ}をまも

しよく^{しよく}にん^{にん}
職^{しよく}人^{にん}です。



☆メモ☆



☆メ毛☆



よこはましぎのうぶんかいかんしていかんりしや
横浜市技能文化会館指定管理者
かぶしきがいしやあしたばはっこう
株式会社明日葉 発行

〒231-0031 よこはましなかくぼんだいちよう 横浜市中区万代町2-4-7

<https://gibun.jp>

2023年版